

# 日本医史学雑誌 第四十卷第二号 目次

原著

近代日本における社会衛生学の展開とその特質……………瀧澤 利行……………二二

山脇東門及び荻野元凱とオランダ医学……………MACE・美枝子……………三三

函館医学校記録（生徒資料より）……………石崎 達……………三五

金沢貞顕文書の医史学的研究……………樋口誠太郎……………六五

研究ノート

明治期の陸軍看護術……………黒澤 嘉幸……………一〇一

資料

結核外科における肋膜外合成樹脂充填術……………藤倉一郎・藤倉知子……………三二

池田文書の研究（十）……………池田文書研究会……………二七

記事

消息

日本医史学会関西支部例会……………長門谷洋治……………三七

例会抄録

『医外史』の研究……………小池 猪一……………三七

三浦梅園の生理学体系—とくに臓腑・経脈・筋骨の機能について……………近藤 均……………三八

J・B・シッドールの衛生指導……………中西 淳朗……………三九

『癲癇狂経験編』の著者土田獻による下気円引き札……………岡田 靖雄……………三三

紹介

《本号の表紙絵》

アグリコラ (Georgius Agricola, 1494-1555) はドイツ人で本名 Georg Bauer、ライプツィヒ、ポーロニャ、パドゥアで学び、はじめ語学を講じたが、フェララで医学の学位を得て、当時栄えたボヘミアの鉱業都市ヨアヒムスタールの市医を勤め、その後も研究を続けて、今日では「鉱物学の父」として知られる。ラテン名を名乗りラテン語で書いた彼の主著 De re metallica (1556) は、当時の鉱山・地質・鉱物学の集大成で、近代産業の勃興に資するところが大きかった。本書は多くの優れたさし絵を含むが、これはその1枚である。

本書は医学的には、東ドイツのザクセン地方のエルツ山地に働く鉱夫たちのあいだに多発する肺の異常を記述しており、アグリコラはパラケルスス (1493-1541) と並んで、職業性呼吸器疾患の早い記載者とされる。ただし、これが肺癌を含むことの証明は300余年の後になった。

この表紙絵はブリュッセル覆刻版 (1968、東大駒場蔵) から採ったが、De re metallica は英語国では、みずから鉱山冶金学者だった第31代米国大統領 H. C. Hoover 夫妻の手になる英訳本が流布する。邦訳は技術史家三枝博音氏のものがあった。

なお、特にこの1枚を選んだのは、図の上で A とマークされた滑り台型のふるいに目を止めていただきたかったからである。このタイプのふるいは現代の建築場面にも登場して screen と呼ばれ (ただし、中央部は金網)、疾病のふるい分けを指す近年の医学用語スクリーニングの語源になっている。 (三輪 卓爾)

齋藤信夫著 『指の文化誌』	石原	理年	三三
大塚恭男著 『東西生薬考』	宗田	一	三四
森 重孝著 『鹿児島医学』	田代	逸郎	三五
田中助一著 『能美洞庵略伝』	江川	義雄	三七
梅溪 昇著 『洪庵、適塾の研究』	杉立	義一	三八
星 和夫著 『楽しい医学用語ものがたり』	三輪	卓爾	三九
三浦豊彦著 『快適環境のフォークロア』	山本	俊一	四一
片桐一男著 『蘭学、その江戸と北陸―大槻玄沢と長崎浩齋―』	津田	進三	四三
トーマス・D・ブロック著 『ローベルト・コッホ―医学の原野を切り拓いた忍耐と信念の人』	深瀬	泰旦	四四
宗田 一著 『渡来薬の文化誌』	大塚	恭男	四五
小林健二・宮川浩也編 『素問・靈枢総索引』	真柳	誠	四六